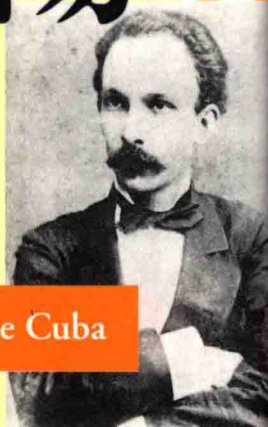


カリブの太陽 正義の詩



Díálogo sobre José Martí, el Apóstol de Cuba

「キューバの使徒 ホセ・マルティ」を語る

シンティオ・ヴィティエール

Cintio Vitier

池田大作

Daisaku Ikeda

潮出版社

Diálogo sobre José Martí, el Apóstol de Cuba

カリブの太陽 正義の詩

「キューバの使徒
ホセ・マルティ」を語る

シンティオ・ヴィティエール

Cintio Vitier

池田大作

Daisaku Ikeda

潮出版社

カリブの太陽 正義の詩^{うた}

「キューバの使徒 ホセ・マルティ」を語る

二〇〇一年八月二十四日 初版発行

著者 シンティオ・ヴィティエール

池田大作

発行者 西原賢太郎

発行所 株式会社 潮出版社

〒一〇二八一一〇 東京都千代田区飯田橋三一一三

電話〇三三三三三〇〇七八一（編集部）

〇三三三三三〇〇七四一（販売部）

振替〇〇一五〇五六一〇九〇

印刷・製本 大日本印刷株式会社

©Cintio Viter, Daisaku Ikeda 2001,

Printed in Japan

ISBN 4-267-01607-0 C0095

乱丁・落丁本は送料弊社負担でお取り替えいたします。

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

[<http://www.usio.co.jp>]

カリブの太陽 正義の詩^{うた}
「キューバの使徒 ホセ・マルティ」を語る
目次

はじめに 池田大作……………1

謝辞 シンティオ・ヴィティエール……………6

第1章 迫害と人生……………15

1 流罪の讃歌——千年先を見つめる眼光……………17

2 師弟——限りなき向上の軌道……………52

3 家族——その人間愛を世界に広げて……………84

4 間断なき前進——言論による精神闘争……………122

5 永遠の生命観——生も歓喜、死も歓喜……………156

第2章

民衆と共に

- 1 使徒と民草——無限の活バイタリティー力への信賴……………185
- 2 民衆の教師——對話と行動の戦人いくさびと……………219
- 3 リーダーシップ——先覚者の苦悩と決断……………254
- 4 二十世紀の國家觀——人類こそわが祖國……………289

第3章

詩心の周辺

- 1 心の詩——人間と宇宙の交響うた……………321
- 2 人道の闘士——永遠なる魂の獅子吼ししこ……………323
- 3 父から子へ——体験、精神の継承……………392
- ……………358

注

420

関連地図

443

ホセ・マルティ略年譜

445

はじめに

「使徒」——この言葉には、殉教の響きがあります。

この世に苦悩がある限り、身を捨てて戦い続ける人。正義に殉ずることに、いささかの逡巡も気負いもなく、むしろ、それを無上の喜びとし使命としている人。千年先を見えつつ足下を忘れず、無私の曇りなき眼と愛情で、民衆の心の奥底に語りかけることをやめない人。

ホセ・マルティは、まさに「使徒」でありました。

一九九六年の六月二十四日の午後、私は、カリブ海に浮かぶキューバ共和国を初めて訪れました。

マルティは、キューバの精神的支柱せいしんてきしちゆうであります。革命家かくめいかにして詩人しじん、作家さつか、教師きょうし、ジャーナリスト、外交官がいこうかん——その多面的な足跡ためんてきそくせきについては、私もかねてから注目ちゆうもくしており、ハバナ大学での講演こうえんでも論及ろんきやくしました。

ただ、私自身、実際に訪れるまで、その人物像じんぶつざうはおぼろげな輪郭りんかくに留まっていたことは、いなめません。

しかし、マルティが愛してやまなかつた海を見、木々を見、花を見、丘を、空を、街を、星を、夕陽ゆうひを、そして闊達かつたうな人びとを見て、「ここはマルティの国である」「あらゆるところにマルティがいる」と知りました。短い滞在たいざいの間、カストロ議長ぎちやうをはじめ、キューバの方がたと対話を重ねるたびに、その印象いんしょうは確信かくしんへと変わっていきしました。

そして、ホセ・マルティ研究所のシンティオ・ヴィティエール博士はかせとの対談によつて、私は改めて、この類たぐい稀まれなる人物の実像じつざうを確認かくにんできたのです。

総合月刊誌『潮』誌上での対談のタイトルを「『キューバの使徒　ホセ・マルティ』を語る」とすることは、博士からの提案ていあんでありました。

この「使徒」の一語いちごに、博士のマルティに対する奥深おくふかき尊崇そんそう、敬慕けいぼの念ねんが、強くにじみ

出ていました。

博士の父君は、キューバで初めて、マルティの研究書を著された先駆者です。

その父君から、博士は、使命の探究を厳肅に受け継がれ、そして崇高な同志である令夫人と、労苦を分かち合つてこられました。

偉大な先人を真実に学ぶことは、自らも、その先人のごとく生きることでありましょう。博士ご夫妻は、まさしく、真に「マルティを生きている」方です。

マルティがそうであつたように、博士の心が、世界の多様性へ広々と開かれていことに、私は対談中、しばしば感じ入つたものです。この博士との対話は、私にとって、マルティというキューバの魂の真髓に迫りゆく、かけがえのない黄金の旅となりました。

「キューバの使徒」マルティの殉教の対象は、愛する「祖国」であり「同胞」に他なりません。ヴィティエール博士も、対談中、「祖国への献身」を何度も強調されました。とともに、マルティは、「人類こそ、わが祖国である」と宣言した、まぎれもない「世界市民」であります。

私は、一人の人間のなかで、「土着」と「普遍」、「民族意識」と「人類意識」、「愛国者」

と「世界市民」の間に「橋を架ける人格」を、マルティに見いだすことができました。

これは、本対談での計り知れない収穫であると感じています。

グローバル化が叫ばれている今日、その基底部に、マルティが体現しているような内在的な普遍性を据えなければならぬと、私自身、長年、訴え続けてきました。

なぜなら、グローバリゼーションの反動とも言うべき「偏狭な愛国心」が、すでにあちらこちらに芽を出しているからです。

国連のガリ前事務総長が、私との会見で憂慮されていたように、この二極分化こそ、新たな世紀が直面している最大の課題といつてよいでしょう。

軍部権力と戦い抜いて獄死した、創価学会の牧口常三郎・初代会長の先見も、ここにありました。

牧口会長は、一人の人間が、身近な地域に根ざす「郷土民」であると同時に、国家に属する「国民」でもあり、また世界を人生の舞台とする「世界民（世界市民）」でもあると主張しておりました。すなわち、国家悪に流されない確固たる足場を、「郷土」と「世界」の双方に築いていくという哲学であります。

私の敬愛する哲人政治家であり、詩人であるドミニカ共和国のバラゲール元大統領が、

ホセ・マルティに寄せる一文を書いておられました。

「マルティの最大の功績は、何であろうか？」

「彼のもっとも偉大な点は、その業績でも才能でもない。彼の功績は、彼そのものである。彼のもつ人間の根源と、そこから湧きいずる生命力である。

かのシェークスピアが、作中の人物に語らせた言葉ほど、マルティにふさわしいものはない。いわく『これこそは人間であつた！』と」

私もまったく同感です。

この一書が、人間ホセ・マルティを、キューバならびにラテンアメリカ諸国のみならず、広く世界に宣揚し、人類精神に立脚した新たな二十一世紀の地球文明建設の一助となるなら、マルティも、あのカリブの蒼天の彼方で、きつと喜んでくれるに違いないと、ヴィンティエール博士と御一緒に、私は信じます。

二〇〇一年七月三日

池田大作

謝 辞

ホセ・マルティの生涯しょうがい、業績ぎようせき、遺稿等いこうをたどりながら、豊富な内容ほうふ ないようを織り込んだ、ホセ・マルティに関する対談を、池田大作博士いけだ だいさくはかせと実現じつげんすることができましたことを、榮譽えいよに思います。

私はこの榮譽に、さらに実みのりある知的結晶ちてきけつしようという言葉ことばを添そえなければならぬと考えます。

その結晶けつしんというのは、対談を進めるにあたり、このたびの深淵しんえんな経験けいけんが、私にとって重ちゆう畳じやうたる意義いぎをもっていたということであります。

その意義いぎにつきましては、本書をお読みになる日本の読者の皆さまも、同じように実感じつかんされるであらうと思います。

池田大作博士が、アーノルド・トインビー博士と、不朽の対談をおこなわれたときに、現在、創価学会インタナショナル会長という立場にある博士は、世界性の横溢した識見を存分に發揮されました。

一九九七年一月に、このたびの対談の準備をおこなうために、私が日本を訪れ、終生忘れ得ぬ思い出となる日々のおりにおこなつた対談におきましても、池田博士は、トインビー博士との対談で示されたときと同じように、精錬され、かつ仏法を淵源とする、包括的な人道主義に根ざした知見を示されました。

その知的な見識は、あたかもキューバの使徒ホセ・マルティが示した、膨大なメッセージと同じ方角に向かって、磁気が合致しているような強靱さを実感しました。

月刊誌『潮』に、十回にわたり掲載された対談が、このたび、単行本として上梓されるはこびとなりました。本書の刊行にあたり、この偉大な、かつ困難な仕事のために、池田博士が、私を対談者としていただきましたことに、心底から謝意を表明いたしたいと思えます。

池田博士の英知なくして、この対談の実現は叶わなかったものであり、この対談は、第三の千年が始まる、この黎明のときにあたり、ラテンアメリカと世界にとっても、意義深く、

普遍的で、かつ囑望にあふれた、マルティの思潮を敷衍するのに資するものであると信じております。

ハバナにて

二〇〇一年五月十五日

シンテイオ・ヴィテイエール

カリブの太陽 正義の詩^{うた}
「キューバの使徒 ホセ・マルティ」を語る
目次

はじめに 池田大作 1

謝辞 シンティオ・ヴィティエール 6

第1章 迫害と人生 15

1 流罪の讃歌——千年先を見つめる眼光 17

2 師弟——限りなき向上の軌道 52

3 家族——その人間愛を世界に広げて 84

4 間断なき前進——言論による精神闘争 122

5 永遠の生命観——生も歓喜、死も歓喜 156

第2章

民衆と共に

- 1 使徒と民草——無限の活バイタリティー力への信賴……………185
- 2 民衆の教師——對話と行動の戦人いくさびと……………219
- 3 リーダーシップ——先覚者の苦悩と決断……………254
- 4 二十一世紀の国家観——人類こそわが祖国……………289

第3章

詩心の周辺

- 1 心の詩——人間と宇宙の交響……………321
- 2 人道の闘士——永遠なる魂の獅子吼……………323
- 3 父から子へ——体験、精神の継承……………358

注……………420

関連地図……………443

ホセ・マルティ略年譜……………445